

滋賀建協が群馬県内視察

担い手育成など意見交換

滋賀県建設業協会（本庄浩二会長）は7日、群馬県建設事業協同組合（前橋市）および利根沼田テクノアカデミーを視察した。本庄会長ら6人は、群馬県建設事業協同組合で道路パトロール事業について意見交換を行った後、利根沼田テクノアカデミーに移動して宿舍を視察。5月に開校したドローン訓練校（旧平川小学校）でドローンのデモ飛行も見学した。

事業協同組合での意見交換の冒頭、群馬県建設業協会の青柳剛会長は「組合では、約70人の職員が道路パトロール、清掃、残土整備などを行っている。組合の活動がなければ群馬の建設業協会が成り立たないと思っ

て今後に生かしたい」と挨拶した。その後、群馬県の道路パトロール事業の担当土木事務所、点検内容、災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」の概要説明および意見交換が行われた。

続いて利根沼田テクノアカデミー行われた意見交換会で青柳会長は、「テクノアカデミーの桑原校長のように、危機意識を持ってなんとかしようという熱意が重要。



利根沼田テクノアカデミーを視察

ドローン訓練校も開校したが、協会としてどのような形で利用していくのか、技術者などで訓練に参加してもらったのかということが課題になって

くる」と指摘した。本庄会長は「担い手不足は共通の悩み。滋賀県にもこのような施設ができれば」と思っている」と述べた。

視察終了後、本庄会

長は「実際に見学すると参考になることが多々ある。担い手やドローンの活用は今後取り組まなければならない問題だ」と語った。